

未来の環境リーダーを育む！ エネルギー×課題解決の親子講座

エネルギーについて学び考える、
夏休みイベントを開催！

もあります。だからこそ、
楽しい探究を通して、電
気やエネルギーのことを

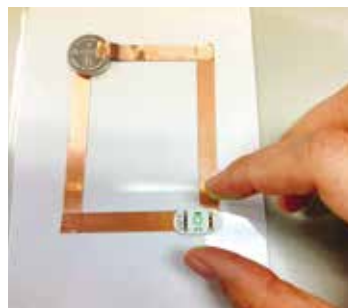
今回の舞台は、P P E S の関
西本社がある兵庫県加西市。「か
けがえのない地球 クリーンで
豊かな社会を未来へ。」という
P P E S のビジョンのもと、楽
しみながら、「電気」について学
び、考えるワークショップを開催
しました。対象は、環境につい
て学び始めた小学校4年生〜6
年生の親子。J E E F 内にある
E L M S センターが、プログラム
開発と実施を担当しました。

電気は日々の暮らしに欠かせ
ない存在ですが、子どもたちに
とっては、その身近さゆえに、
意外と意識がされにくいもので

身近に感じてほしい——子ども
たち自身が実際に自分の手で電
気に触れ、電気を自由に扱う体
験を提供しました。ただ知識を
得るだけではなく、子どもたち
が楽しい体験を通して自分で考
え、課題解決できる力を育むこ
とで、これからの社会で「未来
の環境リーダー」となっていく
子どもたちの育成を目指してい
ます。

自由に探究！
触って学ぶ、電気の仕組み

使うのは、導電性銅箔テープ
とLEDライト。貼った部分が



工作するみたいに簡単に回路を作れます。

そのまま電気を通す、銅ででき
たテープです。台紙の上にテー
プを貼り、LEDと電池を置き
ば、電気回路になって明かりが
灯ります。

シンプルな回路の作り方だけ
を伝えたら、あとは子どもたち
が自分で探究する時間！LED
の数を増やしてみたり、電池や
テープの位置を組み替えてみた
り、やってみaitと思つたことを、
思い思いに試していきます。

これからの環境のことを考えるうえで、「エネルギー」は欠かせない
テーマです。このたび、電動モビリティのバッテリーを開発するプラ
ムプラネットエナジー&ソリューションズ株式会社(以下P P E S)と
J E E F が協働で、体験を通して、省エネや節電について考える親子
講座を実施しました。

「1個のコイン電池で、4つの
LEDをつけるには、どうした
らいいだろう？」

「LEDの置き方で、必要な
電池の個数が変わってくる！」

初めて電気について学ぶという
子ども、自分の手であれこれ試
すうちに、電気回路の仕組みに
気づいていくようでした。





お互いの作品を見合う時間。力作揃いです！

集中して、自分のこだわりを形にしていきます。

エネルギーを 効率的に使った作品作り

そして、電気に慣れ親しんだ
子どもたちが取り組む次のミッション
は、「より少ない電池の数で、た
くさんのLEDライトを灯せる、
オリジナルの回路」をつくるこ
と！

決まった正解がない中、限ら
れた電池、限られた素材を前に
して、子どもたちは真剣そのも
の。節電や省エネの考え方を自
然に体験しながら、作品を作っ
ていきました。

素敵なのは、一人ひとりが、た

だ多くのLEDを灯すだけでは
なく、独創性あふれる作品を作
り出していたこと！同じ条件で
あっても、一人ひとりのアイディ
アが発揮されることで、異なる
作品が生まれます。

限られたエネルギーを、私たち
の暮らしのためにどう使うか考え
ることも、きつと同じです。子ど
もたちが胸の中に持っている、工
夫することを楽しむ力や柔軟な
創造力が、いつか、社会課題を
解決する大きな力になる——子
どもたちの探究心溢れる真剣な
まなざしには、未来を切り開いて
いく力強さを感じました。

わたしたちの暮らしから、 未来は変えられる

ワークショップの最後には、家
庭の中から始められる環境へのア
クションを紹介しました。電気
やエネルギーの分野で特に大切
だと言われている「創エネ・省エ
ネ・蓄エネ」。



創エネや蓄エネは子どもたちに

とっては身近ではないかもしれま
せんが、省エネであれば、電気
をこまめに消したり、フードロス
を減らしたり、ごみを分別した
りといったことから始めていけま
す。家の中での小さなアクション
一つ一つが、社会全体でエネルギー
を無駄なく活用していくことに

繋がっていくのです。まずはそれ
ぞれの家庭で、できそうなこと
を見つけてみるところから始めて
みてほしいと伝えました。
これからの未来を生きる子ど
もたちが、環境について楽しみな
がら考え、前向きにアクションで
きる——私たちはこれからも、
その後押しができるような活動
を続けていきたいと思っています。

参加者の感想

木村 佳葉 (きむら かよ)

1996年横浜市生まれ。
ELMSセンター研究員。
公認心理師・臨床発達
心理士。心理相談の仕
事を経て、2023年より
現職。学ぶことの楽しさ
がたくさんの子どもたち
に届きますように！と思
いながら、体験の場づく
りに関わっています。

- ・ はじめての回路づくりを子どもがと
ても楽しそうに取り組んでいた。回
路についての説明もわかりやすく
よかった。
- ・ 子どもが興味をもって、どのように
したら電気が付くか一生懸命考えて
いた。
- ・ 環境のことを考えてエネルギーを作
ってこれることに対して、エネル
ギーを大切にしようと思った。